



市民の声を市政に反映
杉森ひろゆき
 市議会議員ニュース

杉森弘之後援会広報委員会発行
753号 2019年4月2日
 〒300-1235 牛久市刈谷町1-41-8
 TEL・Fax : 870-0335
 携帯 : 090-5587-7693
 Mail : sugimori@max.hi-ho.ne.jp

原子力事故から子どもを守る

ヨウ素剤配布の必要

第1回定例会一般質問 ①-D

杉森議員は3月6日、牛久市議会第1回定例会で、①東海村原子力施設事故時の対応、②子どもの生命と権利を守るために、③非正規雇用職員の処遇改善について、一般質問しました。今号では①のDを掲載します。

甲状腺がんを防ぐ

【杉森議員の質問】茨城県は以上のように東海村に原子力事故の危険性を秘めた施設を抱えています。総務常任委員会で視察研修した兵庫県篠山市は、福井県の原子力発電所から56kmの距離に位置しており、事故が発生した際には篠山市にも影響が及ぶことが想定されています。

福島では164人甲状腺がん

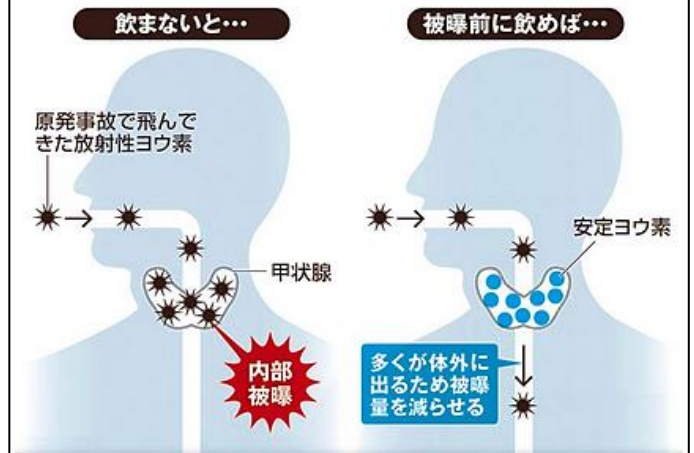
原子力災害が発生した際に放出される放射性ヨウ素を吸い込むと、のどにある甲状腺に取り込まれ、将来「甲状腺がん」などを発症するおそれがあります。福島県では小児甲状腺がん及び疑いの子どもが201人になっており、手術を終えた165人の中で、164人ががんでした。

篠山市に学ぼう

そこで、篠山市では2015年度から、甲状腺の被曝を防ぐ効果のある「安定ヨウ素剤」を事前配布しています。

生後1か月以上3歳未満はヨウ化カリウム内服ゼリー32.5ミリグラムを1包、3歳以上13歳未満は丸薬50ミリグラムを1丸、13歳以上は丸薬を2丸です。

安定ヨウ素剤が効くしくみ



安定ヨウ素剤は3年ごとに入れ替えなければならない。そのための費用は？との問いに対し、市長は「無駄になってもいいじゃないか？無駄になって大いに結構」という、市民の安全第一、健康第一の考え方です。なお、最近、期間が5年に延長されるとの報道記事がありました。

ヨウ素剤費用は12万円

安定ヨウ素剤の費用は1丸が6円程度で12万円と、大きな額ではありませんが、説明会開催費や医師への支払いなどで、合計592万円かかったそうです。篠山市の人口は4.24万人と牛久市の半分です。

子どもの生命と健康を守る

東海村に原発と再処理施設という危険な施設を控え、原子力災害の危険が及ぶ位置にある牛久市も、市民のとりわけ子どもの生命と健康を守るために、原子力災害に備え、安定ヨウ素剤の配布をすべきと考えますが、その必要性について執行部の見解を聞きます。

安定ヨウ素剤配布は不要？

【市民部長の答弁】安定ヨウ素剤は、放射性ヨウ素による内部被ばくを低減する効果があります。

しかし、安定ヨウ素剤は、放射性ヨウ素からの防護に限定されること、また、服用のタイミングによっては、その防護効果が大きく異なることが知られています。

放射性プルームが通過する場合、防護措置が必要な範囲や実施すべきタイミングについて、現在のところ正確に予測することが難しい状況にあることから、適時の服用が求められる安定ヨウ素剤については、UPZ区域外である本市においては、効果的に実施可能な

防護措置であるとはいえないと考えています。したがって、安定ヨウ素剤の配布が必要であるという認識は、現在のところはありません。

(注) 答弁では、安定ヨウ素剤の服用のタイミングを理由に配布を不要としています。篠山市では安定ヨウ素剤を各家庭に保管容器付きですでに配布しており、配布のタイミングは問題になりません。服用についても、原子力規制委員会の見解によれば、放射線内部被ばくの緊急使用における放射性ヨウ素の甲状腺への集積抑制率は、被ばく前24時間以内または被ばく直後の服用の効果が最大の90%以上となり、被ばく後8時間以内で40%の抑制効果としています。まさに、効果的で実施可能な防護措置ではないでしょうか。

安定ヨウ素剤の配布・服用に当たって

原子力規制庁 放射線防護企画課

(原子力規制庁の見解は以下の通りです。)

運転中や停止直後の原子力発電所等は、事故が生じた場合、放射性ヨウ素を含む核分裂生成物を環境中へ放出することがある。核分裂生成物のうち放射性ヨウ素が、呼吸や飲食物を通じて人体に取り込まれると、甲状腺に集積し放射線被ばくの影響により数年～数十年後に甲状腺癌等を発生させる可能性がある。この甲状腺被ばくは、安定ヨウ素剤を事前に服用することにより低減することができる。

放射性ヨウ素が体内に取り込まれる前に安定ヨウ素剤を服用すると、血中のヨウ素濃度が高くなり、甲状腺ホルモンの合成が一時的に抑えられ血中から甲状腺へのヨウ素の取り込みが抑制される。また、血中のヨウ素濃度の大半を安定ヨウ素で占めることにより甲状腺への放射性ヨウ素の到達量を低減させることができる。

ただし、安定ヨウ素剤は、放射性ヨウ素による内部被ばくに対する防護効果に限定されることから、避難や一時移転等の防護措置と組み合わせて活用する必要がある。安定ヨウ素剤の服用は、原則として他の主たる防護措置

に対して従たる防護措置となる。また、放射性ヨウ素が体内に取り込まれた後に安定ヨウ素剤を服用しても効果は極めて小さくなるため、適切なタイミングで速やかに住民等に安定ヨウ素剤を服用させることが必要となる。このため、安定ヨウ素剤の備蓄や事前配布、緊急時の配布手段の設定といった平時からの準備が必要となる。

…放射性ヨウ素が吸入摂取または体内摂取される前の24時間以内又は直後に、安定ヨウ素剤を服用することにより、放射性ヨウ素の甲状腺への集積の90%以上を抑制することができる。また、すでに放射性ヨウ素が摂取された後であっても、8時間以内の服用であれば、約40%の抑制効果が期待できる。しかし、16時間以降であればその効果はほとんどないと報告されている。この

ように放射性ヨウ素摂取後では安定ヨウ素剤の防護効果は小さくなるため放射性ヨウ素が体内摂取される前に予防服用することが大切である。

